

無料 市民歯科健診

対象 15歳(中学校卒業後)~74歳の市民の方

※次の方は対象外

- ・学校や職場などで歯科健診を受ける機会がある方
- ・治療や予防で歯科医院を受診する方
- ・妊婦歯科健診、ぎふ・さわやか口腔健診の対象者

受診期間 6月~令和8年1月31日

※節目健診の方(令和7年度に20歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳になる方)は5月~令和8年1月31日

費用 無料(1人1回)

※治療や処置費は実費

内容 問診、口腔内診査、歯面清掃(一部分)、保健指導

受診方法 事前に指定歯科医院に電話で予約

※15歳~18歳で健診を希望される場合は、事前に健康推進課に電話でお申し込みください。受診券を送ります。

持ち物 マイナンバーカードなどの身分証明書

※節目健診の方と15歳~18歳の方で事前に申し込みをした方は「歯周病検診受診券」

指定歯科医院などの詳細は市ホームページ(HP1009566)でご確認ください。



☎ 健康推進課 (☎55-2010)

8020ハチマルニイマル

表彰の対象者を募集します!

80歳以上(7月31日現在)で、自分の歯が20本以上ある方を募集し表彰します。

治療してかぶせてあるなどしても、自分の歯があれば対象です。

※過去に表彰された方は対象外です。

※表彰が決定した方は、後日、案内を送付します。

申込方法

・保健センターでの歯科健診を受診して申し込む

※事前に健康推進課に電話で予約してください。

健診日時 7月31日(木)午後1時30分

・市内歯科医院を受診して申し込む

※一部の歯科医院では受診できません。事前に歯科医院に電話で予約してください。

☎ 健康推進課 (☎55-2010)

何をしますの? 歯科健診

むし歯チェック・歯ぐきチェック
かみ合わせチェック・舌や粘膜の状態の確認
簡単な掃除 など

口全体の健康を見守ります。20分程度で将来の大きな治療や負担を避けられる可能性があります。



土岐歯科医師会
中村佳司先生

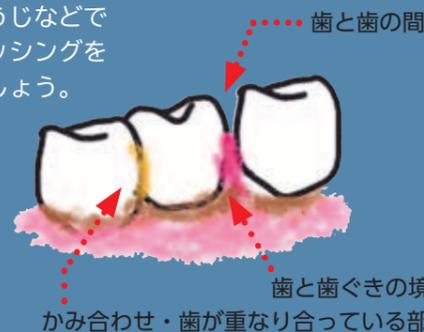
土岐市は、全国でも有数の学校歯科保健における先進市です。学校健診以降、ぎふ・さわやか口腔健診までの間を補完する、無料市民歯科健診が始まります。

お口に不具合が生じてからの受診では手遅れになってしまうことも少なくありません。健康な毎日を過ごせるよう、定期的な健診習慣を身に付けましょう。

健診でも教えます

セルフケアのポイント

- ①歯ブラシや歯間ブラシ、糸ようじなどでブラッシングをしましょう。



- ②よくかんで食べ、唾液で口の中をきれいにしましょう。

- ③喫煙は歯周病を悪化させる原因にもなります。

- ④規則正しく、バランスの良い食生活が健康な歯肉を保つポイントです。

特集 ×

全世代健康寿命延伸事業
ときげんきプロジェクト

口腔ケアが身体の健康の要

無料

市民歯科健診はじまります

8020をご存じですか? 「80歳になっても20本以上の自分の歯を保とう」という運動です。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができると言われています。

口の健康は、「好きな物を味わえる」「会話が出来る」といった生活の質に直結します。しかし、口の健康を損なうと、生活の質は悪く、身体の健康にも影響を及ぼします。口の健康を保つためには、日々の歯磨きなどのセルフケアに加え、歯科医によるプロフェッショナルケアが重要です。

市では、皆さんが元気に年を重ねることができるよう、切れ目のない口腔ケアサポートとして、15歳から74歳までの市民歯科健診(歯周病検診を含む)を始めます。

しばらく歯科を受診していない方は、この機会に健診を受けてみましょう。

☎ 健康推進課 (☎55-2010)

歯周病が影響する主な体の病気

狭心症・心筋梗塞

歯周病菌の刺激により血管内に脂肪性沈着物ができることで、狭心症や心筋梗塞を引き起こします。

誤嚥性肺炎

高齢者など飲み込む力が衰えると、歯周病菌が食べ物と一緒に気管、肺に入り込んで起こります。

糖尿病

糖尿病と歯周病には双方向的な関係があるという報告が多数されています。また、歯周病治療による糖尿病の改善の報告もあります。

脳梗塞(脳卒中)

歯周病の原因菌が血流に乗ることで、脳梗塞のリスクを高めることが報告されています。

歯周病

歯周病は歯を支える歯ぐき(歯肉)や骨(歯槽骨)が壊されていく病気です。30歳以上では約80%がかかっていると言われ、自覚症状に乏しく、重症化するまで気付きにくいので、定期的なチェックが不可欠な国民病です。

関節リウマチ

歯周病菌が作り出す毒素(炎症物質)によって、関節リウマチが発症・進行したり、症状が重くなったりすることが明らかになっています。

低体重児・早産

歯周病により炎症が広がると、それを抑えようとして作られた物質により、子宮の収縮が促され、早産が引き起こってしまいます。